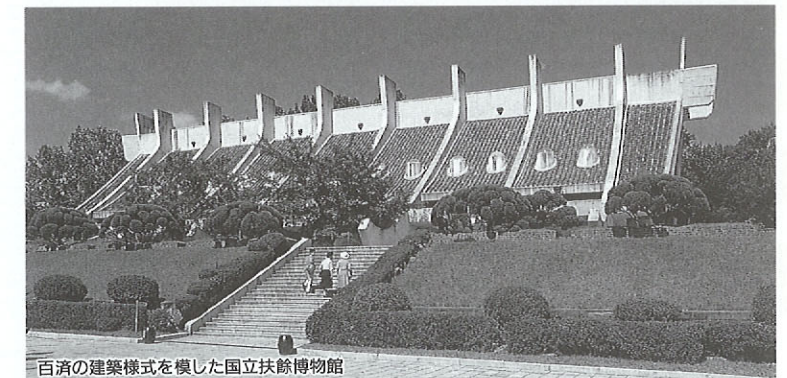


1979年9月、熊本県唯一の定期国際航路熊本-ソウル線が開通。これを契機に韓国との往来が盛んになり、1983年1月、文化、産業など類似点の多い忠清南道と本県は、全国で初めて、韓国と県レベルでの姉妹提携を結びました。

今回は、古代、百済の都があった頃から交流を行っていたといわれる忠清南道との姉妹提携交流をレポートします。



百済時代のものとして韓国で唯一の定林寺址五層石塔(扶餘)



百済の建築様式を模した国立扶餘博物館

古代の都が眠る忠清南道

忠清南道は韓国のほぼ中央に位置し、道面積の約九〇パーセントが海拔百メートル以下のなだらかな丘陵地帯です。

この忠清南道の中央に公州市、公州郡、扶餘郡があります。これらの地域は古代百済国の中心地でしたが、百済文化を今に伝えるものはほとんど残さ

青少年の交流を中心に進む相互理解

熊本県と忠清南道は、姉妹提携以前からも様々な交流が行われています。

民間団体の交流は、経済、文化、スポーツと多岐にわたり、今では忠清南道を中心に韓国全体に広がりをみせ、その数も三十団体を越えています。

また、来年度十周年を迎える県レベルの姉妹提携交流は、青少年の交流を中心に進んでいます。

去る八月十七日には、高校生による第七回日韓親善スポーツ交流競技会が本県で開催されました。これは一九八五年から毎年、若い世代の友好を深めようと、熊本と忠清南道で交互に開かれているものです。こうした交流の積



韓国独立記念館(忠清南道天安郡)



百済時代の宮廷庭園の一つ「宮南池」(扶餘)



百済第25代武寧王の墓「武寧王陵」(公州市)

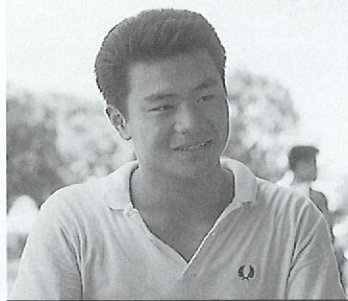
れていません。新羅が侵略した際に百済のものを破壊し尽くしてしまったり、残る史料も日韓併合時代に日本に渡ってしまったからだといえます。今、忠清南道では、これらの地域を百済文化圏として整備保存し、地域振興の核にしようと事業を進めています。

また韓国では、今年三月に市・郡・自治区の基礎団体、六月に特別市・直轄市、道の広域団体の議会選挙が行われ、三十年ぶりに地方議会が再開されました。忠清南道でも直接地域住民によって選ばれた議員が、地域の意思を反映し、地域の特性を生かした地方行政の実現に取り組んでいます。来年には政府の任命制だった知事などの首長選挙も行われる予定で、本格的な地方自治の時代を迎えようとしています。

県職員の相互派遣も全国で最も早く、一九八九年から実施されています。派遣された職員は、現在の日本人の姿を等身大で伝えるとともに、韓国の制度・文化を学び、人のネットワークづくりを進めています。

これらの交流を基礎に今、熊本と韓国が持つ歴史的関わりと誠実に向き合った交流、特に若い世代を通しての相互理解の輪、交流の輪が広がろうとしています。

陸上、ハンドボール、バレーボールに熱戦が繰り広げられた今年八月十七日の第七回日韓親善スポーツ交流競技会。参加者に感想をうかがいました。



坂田倫也君(甲佐高校三年・内壘投げ)

楽しかったです。韓国の高校生は、男女が協力的ですね。フォームとか教え合っ。言葉は通じなかったけど身ぶり手ぶりで気持ちは通じたみたいです。



李明善さん(フンサン工高三年・砲丸投げ)

皆さんとても親切で、楽しく競技できました。出口を譲ってくれたり、自然に気を配ってくれているのがよく分かりました。また来たいと思います。

